

	課題：児童の実態・学習状況、指導の実態	改善プラン：課題改善の方針・具体的手立て
国語	○場面の様子や登場人物の行動を捉えることが苦手な児童がいる。 ○「は、へ、を」の助詞や小さい「や、ゆ、よ、つ」を文章の中で正しく表記する力を身に付ける必要がある。 ○ひらがなの習得に個人差がある。また、言葉を音で捉え復唱しているだけで、まとまりとして捉えることが難しい。結果として、文章を流暢に読めるようにする必要がある。 ○意欲的にタイピング練習に取り組む児童が多いが、意欲や習熟度に個人差が見られる。 ○図鑑や写真の多い本を好んで読み、物語を読まない児童がいる。	☆デジタル教科書を活用し、お話の内容に合わせて動作化したり登場人物を写真で掲示したりしながら内容理解につなげ、様子や行動を捉えやすくする。 ☆長音、拗音、促音、撥音の表記や助詞の使い方を、視写や聴写、短作文作りを毎授業で10分程度時間を確保し、反復練習する中で定着を図る。 ☆全体指導では、文章の区切り方や語彙力を向上を図るために、平仮名、カタカナ等の習熟の際に、新出語や名詞の意味を押さえ、「読む・書く・使う」の積み重ねを行う。また、文節で区切ってから読むことに取り組みせ、まとまりで捉える練習をする。個別指導として、個別に支援をしたり学習補助員を活用したりして、安心して授業に参加できるように努める。家庭と連携を取りながら基礎的な力を身に付けられるようにする。 ☆児童の実態に合ったタイピングソフトを活用して指導する。 ☆学級文庫を設置し、読み聞かせや本の紹介を充実させ、すすんで読書ができる環境づくりを推進する。お薦めの本を紹介し合ったり、交換して読み合ったりする活動を通して、興味関心の幅を広げていく。
算数	○意欲的に取り組む児童が多いが、理解や習熟の度合いで個人差が大きい。 ○文章題の内容の読み取りから加法か減法かを判断し、正しく立式することができない児童が少なくない。 ○説明、表現する力に個人差が見られる。	☆具体物、半具体物を活用し、計算問題等が実際に生活でどのように活用されるかを押さえ、授業、家庭学習で基礎的な力を付けるように指導する。習熟が不十分な児童には補習授業を活用するとともに、タブレット端末の「タブレットドリル」を活用して反復練習に取り組み基礎的な力の定着を図る。 ☆机間指導やプリント・ノートなどから児童のつまずきを早期に見付け、個に応じた指導を行っていくとともに、ポイントを押さえた分かりやすい授業作りに努める。 ☆具体物を使用したり、絵やおはじきなどの半具体物を用いて表したりして、具体的な場面と対応させながら考えさせ、理解を深める。 ☆文章の読み取りに課題があり、国語的な支援が必要な児童については問題を読み上げたり図で説明したりして、スモールステップで学習を指導する。 ☆児童相互で考えを説明し合う機会を設けたり、全体での発表の場を増やしたりして考えを発表することに慣れるよう指導する。
生活ひろば	○活動には意欲的に取り組むが、気付きの質が高まらない児童がいる。 ○他学年との活動・交流を通し、学校生活への関心を深める機会が少ない。	☆気付いたことを観察カードに書いたり、話し合ってから交流したりする機会を意図的に設定する。また、国語の学習と関連させて、観察カードの書き方を指導することで詳しく書けるようにし、気付きの質を高める。 ☆他学年との交流を通して学校生活への興味・関心がもてるようにする。
音楽	○音楽に合わせて体を動かしたり、リズムをとったりすることが苦手な児童がいる。	☆歌ったり、踊ったりする活動やリズム遊びを繰り返す行うことで、一小節内で複数のリズムを打ち分ける力を身に付けられるようにする。また、活動を通して音楽の楽しさを味わえるように指導する。 ☆鍵盤ハーモニカは基礎的な指使いやタンギングの学習を進めていく。
図工	○作品づくりに関心・意欲をもって生き生きと楽しく取り組むことができる。 ○生活経験や表現の技術に個人差が大きく、イメージを表現しきれない児童もいる。	☆クレパスやはさみの使い方に慣れたり、楽しく色を塗ったりできるように、基礎学習を徹底する。また、自分の思いに合わせて児童自らが選択できるような教材準備をする。 ☆鑑賞の時間や作品を発表する時間を設ける。また、作品のイメージを授業の冒頭で共有したり、友達の作品を鑑賞したりすることにより、アイデアや表現の幅を広げられるようにする。
体育	○用具を操作する運動遊びのなわとびにおいては個人差が大きい。 ○振り返りや話し合いの場面で、自分の考えを表現する活動を多く取り入れる必要がある。	☆多様な動きに取り組めるようにし、各種の動きの基礎となる感覚を身に付ける。 ☆国語等、他教科での言語活動を充実させ、考えを伝えたり聞いたりする力を育てる。自分の言葉で伝えられない児童には、達成度を4段階から選ばせたり、自分に合う課題を選ばせたりして考えを表現することの定着を図る。
道徳	○自分の考えを発表できなかったり、教材のめあてを捉えて自分の考えをもったりすることが難しい児童がいる。	☆ペアや少人数でのグループでの話し合い活動を取り入れ、友達の意見を聞いて自分の考えをもてるようにし、全体の場では考えが発表できない児童にも、発言する機会を保障する。 ☆児童の発言に対して教師が価値付けることで、考えや思いを伝えやすい学級の雰囲気作りを行う。